

# 文教住宅都市としての 学生のすまい ワークショップ

学生

西宮市

専門家



ニュース第3号

西宮市すまいづくり推進課発行 2014年 12月

## 第3回 『文教住宅都市としての学生のすまいワークショップ』を行いました！

今回はまず学生のメンバーに1・2回目のワークショップで考えたことをまとめてもらい、専門家へ向けて提案発表をしてもらいました。その提案をもとに、さらに議論を深めてもらい、最終回へ向けてのブラッシュアップを行いました。

ワークショップメンバー：NPO関係者2名、学識経験者（近畿大学）1名、西宮市内不動産事業者2名、シェアハウス企画運営事業者1名、大学生（留学生含む）16名、ファシリテーター（株式会社地域計画建築研究所）3名

済

学生WS  
10月4日

してみたいこと（夢・希望）  
を実現するための暮らし方と  
住まい方のかたち

済

学生WS  
11月15日

私たちが考える西宮市での暮  
らしと住まい方の提案を作成

学生WS  
12月6日

1・2回目で考えたことをさら  
に深め、企画実現に向けての  
ブラッシュアップ

専門家×学生WS  
1月10日

メンバー全員による施策提案  
の取りまとめ

### 第3回ワークショップのプログラム

日時 2014年12月6日（土）14時～17時  
場所 西宮市役所職員会館3階大ホール

プログラム①	はじめに	14:00～14:05
プログラム②	キックオフスピーク	14:05～14:20
	・『地域の中における学生の居場所』スピーカー：NPO法人なごみ 田村 幸大 氏	
プログラム③	各グループによる提案まとめワークショップ	14:20～14:50
プログラム④	各グループによる提案発表	14:50～15:40
	・第1・2回のワークショップを通じてまとめていただいたアイデアを各グループ5分程度で発表し、専門家から企画実現に向けて検討を深める視点についてのアドバイスがありました。	
プログラム⑤	企画実現に向けたアイデアのブラッシュアップ	15:40～16:50
プログラム⑥	専門家からのコメント	16:50～16:55

### プログラム④ …… 学生メンバーに提案発表をしてもらいました！

第1・2回のワークショップで学生メンバーがまとめたアイデアを各グループ5分程度で発表してもらいました。

専門家の方から、次のようなアドバイスがありました。  
住まいや拠点について

- ・本当に学生や地域の住民が行きたくなるような必然性を持っているのか
- ・様々な人が集まることで発生する偶発性があるのか
- ・継続できる仕組みとなっているのか



## 1 班で話し合った内容

### 留学するなら西宮

留学生と留学生、留学生と日本人学生、  
留学生と地域住民を No Burder に

#### Step 1 : 大学が所有する 1 つの学生寮での取組

##### 地域住民に対して

- きっかけづくり** 留学生が地域に出て、地域に対して留学生としてできることを探す
- 交流プログラム** 語学勉強会、外国文化教室（チヂミパーティなど）、日本文化教室など交流が生まれる取組を実施

##### 学生に対して

- 人がつながるイベント** 誕生日パーティ、大掃除などをイベント的に開催（使用している言語を英語 or 日本語に限定する）

#### Step2 : 大学が所有するすべての学生寮へ取組を拡大

- 寮ごとに公用語を決める** 寮ごとに公用語を決めて、その国の言語や文化に興味のある人が集えるようにする⇒それを寮の特徴としてPR

- 交流プログラムを発展させる** プログラムの発展に向けて、企画・運営体制や継続して参加してもらえる仕組み（たとえば単位認定制度）などを検討する。

#### Step3 : 西宮市内全大学に拡大

- 他大学への拡大** 個性的な大学づくりの一環として、他の大学にもプログラムを取り入れてもらう

## 2 班で話し合った内容

### 趣味でつながる拠点づくり

～ミドル層のやる気を高めて全体のレベルアップをはかる～

※ミドル層…学生の中でも一般的な学生のことをさす

#### 拠点を つくる目的

- 同じ趣味の人とつながるきっかけとなる交流の場をつくる
  - 多くの人に趣味で行ったことを見てもらおう場を設けて、周りの反応が得られるようにしたい
- ⇒行き来しやすい場づくりが重要

#### 拠点を したいこと

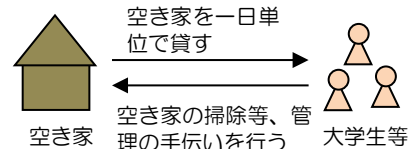
- それぞれの関心事についてディスカッションしたい
- それぞれの関心ごとをプレゼンテーションし、勉強会のような形で情報交換して知識を広げる
- 作品の展示を行う

#### 拠点を あり方

- 開催日は「特別な日」、「この日だから」と思ってもらえるように定期的に関く場とする
- 時間を気にせず、話が尽きるまでいられるような誰かの家のような場所であるとよい
- 学生が継続的に集まれる場とするため、無料で運営できる仕組みを考えられればよい

#### 企画提案

- 大学生が市内の空き家を一日単位で借りて、趣味等で集まる拠点とする。（貸してくれる空き家を巡りながら拠点を定期的に設けるイメージ）
- 空き家は無料で提供してもらおうが、その代わりに掃除等を行い、所有者の空き家管理を手伝う役割を担う
- 空き家所有者が空き家を一日単位で貸すことで、空き家活用にもつながる

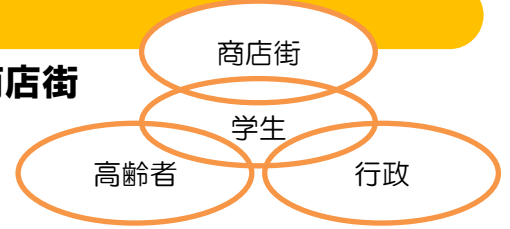


### 3 班で話し合った内容

#### 学生と地域の人を支え合う・助け合う・協力できる商店街

##### ターゲット

- 空き店舗や空き家があって、活性化が求められている商店街
- 活躍の場を求めている地域の高齢者
- 西宮らしい商店街暮らしを体験したい学生
- 学生のまち西宮を実現したい行政



学生が橋渡し役に

##### 提案のポイント

#### 1 段階的に関係をつくりながら学生が地域に入っていく 一歩ずつ

##### Step 1 情報共有と顔なじみの関係づくり

- ・学生取材チームによるまち歩きや取材
- ・地域新聞の発行、自治会を通じて配布 SNS の活用

##### Step 2 イベント型で場をつくる

- ・学生や地域の大人が講師役となる各種教室開催  
例 パソコン・スマホ、料理、農業体験などの教室
- ・お祭りや子ども会などの地域行事への参加。
- ・常設型の場づくりの準備 場所確保、資金確保、運営体制

##### Step 3 学生と地域が常設型の場（カフェ）をつくる

- ・空き店舗や空き家を活用した学生下宿を確保
- ・常設型のカフェの開催  
テーマ例 食・農カフェ 旅カフェ 見守りカフェ スタジオ・アトリエ

#### 2 学生が商店街で暮らす 空き店舗や空き家活用

- ・空き店舗や空き家のある商店街（夙川、甲子園口、門戸厄神）に向けて提案する
- ・空き店舗や空き家で学生が暮らす（家賃免除と学生らしいアイデア、パワーの提供）

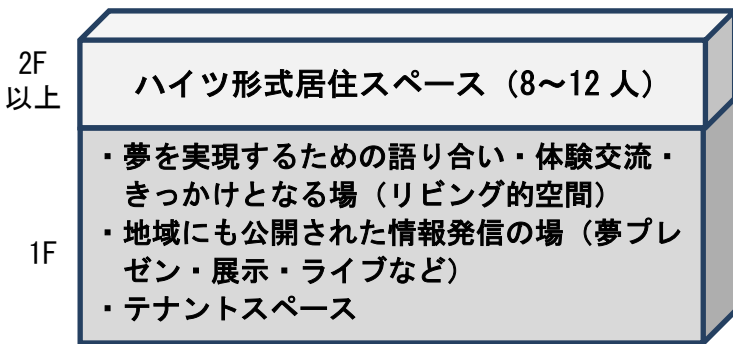
#### 3 学生と地域の人とのニーズを結びつける ニーズを結んで実現へ

- ・学生はアイデアと実行力を提供。商店街や地域の高齢者と一緒に支え合い、助け合い、協力
- ・行政は活動を後押し

### 4 班で話し合った内容

## Dreams Room

リアルな体験が情報として集まって熱意をもって語り合える場所  
(きっかけとなる場所・人を育てる場所・松下村塾的な場所)



##### 運営イメージ



運営・維持管理は住民である学生が主体。  
リビング、テナントスペースなどの利用についてはルールを定めて運営する。

##### 情報発信 (居住者の夢の発表)

- 定期的にプレゼンの場を設ける
- 今期の支援ドリームを決定
- 夢を叶えるための材料 (情報・人材) を決めて予算決定・住民で調達
- 演劇や作品展示などの場としても活用

##### 情報収集 (夢を支援する)

- 夢を実現している人と話をする。(トークライブイベント・夢に対するアドバイス)
- OOB・OGや地域の有名人との交流の場 (大学や居住者のネットワークなどから発掘)
- 居住者等のお気に入り本 (関心テーマ) がある本棚 (建築・海外など)

##### スキルアップ (就職に向けて)

- ワークショップやセミナー情報など、就活・院試に向けた情報交換・職業体験ができる場
- 他学部の人への考えに触れる場。他の大学の同じ学科の人と競う場。

## プログラム②

～キックオフスピーク～ NPO法人なごみ 田村 幸大 氏

### 『地域の中における学生の居場所』

— ワークショップに参加していただいている専門家 田村幸大氏によるミニ講演会の概要 —  
学生が地域と関わることで得られること

- ・学生は地域と関わることで、地域内にいる様々な知識を持った人生の先輩に接することができ、視野を広げることが出来ます。

地域が学生に期待していること

- ・エネルギーが豊富なところや才能をどう活かしてくれるかということに対して魅力を感じています。一方で、地域独自のペースを崩すことに抵抗があるため、新しい取組を受け入れるのに難色を示す場合があります。

地域が学生に求めていること

- ・新しいことを提案するだけでなく、現在、地域で行われている行事に若者のパワーを貸してほしいと考えています。また、地域住民だけでは思いつかない新しいアイデアの提案を求めています。

学生が望む暮らし方×地域の人が住み良い環境

- ・地域の人が望む住まい・暮らし方でなければ、地域の一員として住んでいるとは言えないと思います。そのため、学生が望む住まい・暮らし方を考えるのと同時に、地域の人はどう感じるかといったことも考えながら提案内容を検討してもらいたいと思います。



## プログラム⑥

### 専門家からのコメント・アドバイス

皆さんの話を聞いていると、1階に食堂があって、大家族で暮らしているような多世代で住めるマンションがあれば楽しいのではないかと思います。実現に向けて資金調達についても考えてもらっていますが、学生の方からこんなマンションを建てて欲しいという声を不動産会社やオーナー等に伝えれば、十分に実現できるのではないかなと感じました。



不動産業者

皆さんの発表や話し合いに参加していると、とても楽しい提案がまとまるのではないかと期待が高まっています。また、話を聞いていて、地域とつながる材料や資源が身の回りにありそうということが発見できて楽しかったです。

私には今でも分からないことがたくさんあります。学生の皆さんも分からないことを恥ずかしいと思って隠すのではなく、分からないことは積極的に質問して議論を進めていただけたらよいと思います。



NPO関係者

ワークショップも3回目となり、悩みながらも企画がまとまってきているように思います。学生は、エネルギーな力を発揮できる場と日常的な悩みを打ち明ける場の両方を求めているように感じています。そのような場を考えて行くためには、形式的な話をするのではなく、自分の気持ちを正直に語ってもらえれば、よりリアリティのある提案になってくると思います。提案のまとめの段階においては、「自分はこうしたい」という自我を出して、進めていっていただきたいと思います。



学識経験者

### 第4回文教住宅都市としての学生のすまいワークショップ

日時 平成27年1月10日(土)午後14:00～

場所 西宮市役所職員会館3階大ホール

テーマ 学生による提案発表とメンバー全員による提案の取りまとめ